

起句	01)	慈愛こめ一行添へて書く賀状	つぎを
	02)	紅茶ポットに若水を汲む	松陽
	03)	初富士に向う自転車加速して	七緒
	04)	萬両の実のたわわなる辻	以和於
月	05)	かの国は月の模様を何と見る	笈羅
折端	06)	上へ下へと天地決めかね	恆雄
折立	07)	潮境鱈は春を告げる魚	以
恋	08)	借家の庭にももの芽萌える	七
	09)	バリトンの歌声響く朝寝床	松
	10)	遠足の児ら少し迷惑	笈
	11)	六月の群雲に乗り鵬翔る	恆
月	12)	南海の葦舟洗うスコール	七
	13)	鉄格子ゴーン眺める梅雨の月	松
	14)	ジャポニスムにも新たな動き	笈
	15)	うららかやルノー忽ち駆け去りぬ	以
	16)	交(つる)む獣を驚かす宵	恆
花	17)	花を折る書生酌婦に咎められ	七
折端	18)	鳴く鶯に踊り子はしゃぐ	松
折立	19)	風船の野越え山越え何処へ行く	恆
	20)	B29の爆音高し	以
	21)	次々と干芋吊す軒の先	笈
	22)	鳶に紛れるドロンちび丸	七
	23)	濁り酒濁れる呑める老教授	以
	24)	鬼灯という字のおどろおどろし	恆
	25)	白井君中国の床(ゆか)に涙する	松
恋	26)	未央(びよう)柳に偲ぶ俤	笈
	27)	混浴に入れぬタトゥー金髪の	七
	28)	村芝居観る極道の妻	松
月	29)	月光の鍵盤濡らす楽の時	恆
折端	30)	シューベルト氏の眼鏡のレンズ	以
折立	31)	寿ぎの旅の終りは日ものどか	笈
	32)	靴を脱ぎ捨て踏青嬉し	恆
	33)	立ち雛の真似をして立つ影二つ	以
	34)	晴れ着の袖にそつと草餅	笈
花	35)	片肌脱ぐタイの僧侶に花の散る	松
	36)	弟子も牛馬も哭く涅槃図絵	七